

2024 年度 事業報告

会員皆様、日々のスポーツウエルネス吹矢活動にご尽力戴き誠に有難く、感謝申し上げます。社会現象といわれる 高齢化現象と 高齢者対応が、私たちの仲間づくりにも避けることができない環境と感じています。

コロナウイルスに翻弄された数年の影響は、計り知れることなく、癒されることはもなく、見えない敵と戦い続ける事が予測されます。

会員皆様のご協力でコロナの感染打破を飛沫テストで乗り切れた。これは素晴らしく、会員の皆様の支援ご協力に重ね重ね感謝申し上げます。

ありがとうございました。

コロナウイルス感染症は 2023 年 5 月、第 5 類に移管され、大会、練習、行事の活動回帰を感じます。各地区の大会参加数の回復に現実を感じ取れます。

これからもの活動に期待が持てるところでもあります。

2. 課題の状況報告

2024 年度は三点に集中して頂きました。

- ① 新会員の確保
- ② 人材の確保
- ③ 財政の安定

しかしこの課題の大きさ、難しさを強く感じた年でもなかったかと感じます。

計画を簡単に考察します。

① 新会員の確保

会員の皆さんに、新会員確保にご努力頂きましたが、退会者の歯止めがきかず、会員を増やせる成果を掴めませんでした。

② 人材の確保

皆さん精力的にご尽力頂きました。しかし、後継者不在が主要因で多くの支部の活動の危機に直面し、解散の選択を余儀なくされたことも現実です。今後この戦いは終わることなく、激しさが増すのでないかと危惧する課題です。

47 都道府県での事情は異なります。改めて、ご準備をお願いします。

③ 財政の安定

協会の財政基盤は会員数の安定です。

現状、入会者数、退会者数の増減に一喜一憂です。

今後も日々の活動にご尽力をお願いします。

3. 事業方針

会員数を 2024 年度に3万人

2024 年度末の会員数は約 25000 人 新規者 2000 人 退会者 2900 人が実態です。その会員数 25000 人に、約 3500 人の年会費未納者が含まれます。会員数の増減動向は本協会経営の基盤であります。減は深刻な問題です。約 10%の未納者の実態は計りかねますが、会員皆様はおしなべて高齢者であり個々人の健康不安と、諸事情が想定されます。

県協会から頂く大会情報から、参加者数が増加している現象は、大変明るく、希望の持てる事であります。

行事に参加の皆さんが、吹矢を楽しく 仲間と楽しく そして見学に家族同伴で来て頂けるようお願いします。

組織として

2025 年度は人事の新体制の年になります。

体制をどうしたいか、どのようにありたいか、を。

協会の体制の安定を考え、反映出来るべく検討しました。

又、数年の課題として、新指導員構想を掲げてまいりました。

この会員数変動の激しい現実を真剣に見極め、会員目線の体制作りの厳しさに目を向け、皆様のご意見いただき、指導員のあるべき姿を来期も追求めます。

財政の安定

本協会の財政の安定の鍵は会員ありきです。

過去に 4 万人近い時世がありましたが、現実には半減、厳しい現実です。

協会の体制上、会員主導の財政を大きく変えうる機能はありません。

諺に 出づるを制す といわれます。

現実を直視し、目線を違えないように皆様と改革に努めて行きたいと思っています。

4. 2024 年度 会員数関連

課題	2024 年目標 新規会員	2024 年実績 新規会員	総会員数	30周年 目 標
	3000 人	2013人	2026 年度 5 万人	10 万人

5. 大会 スポーツウエルネス吹矢を SWF と記します

事業課題	開催	2024 年 目標	2024 年 実績	2023 年度	備考
第 6 回 全日本 SWF 団体選手権	5 月 15 日	500 名	343名	296 名	
SWF 理事長杯大 会 2024	5 月 16 日	500 名	312名	308名	
第 6 回全国 SWF オープン大会	11 月 11 日	600 名	683名	498名	
第 13 回全日本 SWF 選手権大会	11 月 12 日	500 名	516名	384名	
第16回全国SWF ジュニア大会	8 月 3 日	50 名	62 名	30 名	
第 17 回全国障が い者 SWF 大会	10 月 3 日	100 名	64 名	59 名	

6. 指導員・会員

	実施月等	2024 年 目標	2024 年 実績	現員数	
公認指導員	6 月 11 月	300 人	169 名	1640名	目標 1500 名に 1 名体制を確保
上級公認指導員	6 月 11 月	100 名	66 名	917名	
A ライセンス資格者	8 月 2 月	50 名	5 名	104名	
審判員試験	県協会 開催	100 名	88 名	944 名	目・1000 名 実・944 名

障サポ指導員試験	ブロック開催	50 名	47 名	487 名	
ジュニア会員		50 名	22 名	243 名	
団体 大学		10 校	8 校		
大学ボランティア校		2校	8 校		

7. 各部の活動報告

普及部

1) 計画

事業方針：中期計画達成を目指し普及振興施策立案と推進を図る。

吹矢ファンの拡大を目指す。そしてブロック長会議重視による学びあえる環境整備を図る事を方針とし取組んだ。

事業計画：「認知度向上、魅力度向上、表彰制度の再構築」を重点に取組んだ。

2) 実績

新規会員数 3000 名の目標を提示し全国 16 ブロックへ目標数の要請を行った。各県目標数合計は 2100 名であり実績数は 1924 名であった。今年度最大の課題は入会数より退会数が多い事であり高齢化が大きな要因である。入会者が生まれたのは全支部数の 56%であり半数の支部しか動いてない。会員増は複数体験会が最大の効果を生むが、金銭的な支援要請が多い為、市区町村スポーツ協会等への加盟促進を要請した。

認知度向上は地元新聞、地元 TV へのアタックを推奨したが、吹矢を全く知らない地域が多々ある為、広報や広報委員会の活動改善を望みたい。今、最大の課題である。

魅力度向上の健康志向については「吹矢と健康」を会報に連続掲載でスタートした。専門家(医師)の投稿が実現した。

競技志向は「全国大会状況調査」を実施し BIG 大会、Middle 大会、エンジョイ大会に区分して集計した。

今後に向けては高齢化対応として地域「交流会」の増加や活性化を重視したい。

表彰制度は現行のアナログ評価を見直、デジタル評価(新規会員獲得数+純増数や新支部設立数+純増)の仕組みとした。

ブロック長会議は3回を ZOOM1回、リアル1回、各ブロック会議参画会議1回を開催、協会本部参加で各県とのコミュニケーション強化を図った。

教育部

課題に ① 人材の育成・教育 ② 新指導員制度の構築 ③ 資格更新講習を掲げ、支援して参りました。

教育部活動の主である指導員活動に、まだコロナウイルス感染症の後遺症が見える。五年を経過しているが、神髄は萎えていない。今後も渦中での活動を続けていかななくてはいけない。

指導員支援は県協会教育部のご努力により進めて頂いています。

しかし、行事開催頻度の減少、規模の縮小、参加者の減少、種々マイナス要因が払拭されず、指導員教育の先行きに不安も感ずる。

特に顕著なのは資格保持必要性の狭間に入っている。

資格の返上は一般社団法人 日本スポーツウエルネス吹矢協会において致命傷になる。

指導員活躍の源は、現場指導であり又新規開拓をはじめとした普及活動、支部運営の人材育成と人材確保等、多面的期待がある。

指導員資格返上が続く中ですが、新規の資格取得者数の減少はあるが、期待感をもって受験に向いて頂けている会員の皆さんに感謝します。

段位試験では、八段位 一名 七段位 三名 が誕生しました。

会員減少による、段級位受験者数の鈍化は厳しい環境の一つでもある。

全ての要望を全て受け入れることは出来なくても、親しみある対応で進めたい。

47 都道府県はそれぞれの地域特性を生かして頂けるように。

目標の報告

	2025 年 3 月現在	2024 年新規数	2024 年目標
公認指導員数	1640人	169 人	目標 300 人
上級公認指導員数	917人	66 人	目標 100 人
A ライセンス資格者数	104人	5 人	目標 50 人
段位試験 (七段・八段)		合格者 七段位 3 名 八段位 1 名	

課題

教育部として重要視する一つは 資格返上 です。

今後も試験制度、更新講習の環境整備を努めます。

2025 年 3 月社員総会に改定を提案、議論頂きご承認を受けました。

今後も環境に合う制度に、現場に合う進め方に見直し、提案、相談を進めて参りたい。

大きな課題の「指導員一本化」は慎重に進める。時代に合うのは何が良いのか

2025 年度、又、協会 30 周年への課題として取り組みます。

審判部

- ① 理事長杯、団体戦、オープン大会、全日本選手権大会、障がい者大会
ジュニア大会の六大会の開催支援
- ② 全国公認審判員数 1,000 人体制を目標としたが、944 人にとどまった。
公認審判員 A 認定88人 AA 認定36人 AAA 認定2人
- ③ 山梨県で審判部発足し、未設置は 4 県となる。
- ④ 審判規則、公認審判員規約の改正

競技部

- ① 団体戦、理事長杯、オープン大会、全日本選手権大会、四大会の開催
障がい者大会、ジュニア大会の二大会の開催支援
 - ・団体戦 5月15日開催 参加者 343 人
 - ・理事長杯 5月16日開催 参加者 312 人
 - ・オープン大会 11月11日開催 参加者 683 人
 - ・全日本選手権 11月12日開催 参加者 516 人
- ② 競技規則の改定
2023 年度より、ブロック・県協会の意見を聞き改定した。
付則にて、施行日は 2025 年 4 月 1 日としたが、混乱を避けるため及び規則
を周知徹底させるため、2025 年度開催される大会については、改定前の競
技規則を適用することが出来るようにした。

ジュニア&ユース育成部

■ 2024 年度事業計画

- 1) 専修学生・大学生へのスポーツウエルネス吹矢の認知度を高める(目標数 20 校)
- 2) 大学のボランティアサークルへのアプローチ
- 3) スポーツウエルネス吹矢の効果・効能等のエビデンス作成
- 4) 大学対校選手権大会の拡大化
- 5) 日本レクリエーション協会が認定する課程認定校へのアプローチ

■ 事業報告(進捗・結果含む)

1) 関東地区では、埼玉県の日白大学(岩槻キャンパス)で地元支部との連携で大学内にサークルが誕生。級段位試験にもチャレンジするなど積極的な展開がスタートしました。東海地区では、大学の授業で紹介と様々な活動が実施。愛媛県や福岡県で

も新たな動きがみられました。

2) 成蹊大学ボランティアセンターとの打合せで、学内の掲示板に募集用のポスターを掲示させていただく事で合意しました。その他の大学でもボランティア募集を随時行っておりますが、まだ大きな成果は得られておりません。

3) 東京有明医療大学の高橋准教授が学生を被験者として実践検証を実施。今後、有経験者を対象に同じ内容の実践検証を行ない、スポーツウエルネス吹矢の持つ「効果効能」の裏付けを行なっていきます。

4) 関西地区では第7回大会が開催され、学生による審判制度も導入し新たな展開になっております。関東地区では、第1回大会を2025年冬季開催に向けて上野関東学生連盟会長を中心に企画内容を纏めております。

5) 認定校へのアプローチは実施できておりません。2026年4月実施に向けてスケジュールを作成しております。

■ 今後の課題

- 1) 大学生には、ユニバーサルスポーツとして紹介し、SNS等でスポーツウエルネス吹矢を拡散していただく事が最大の狙いです。
- 2) ジュニアは、指導者育成が課題となります。子ども達への指導法を含めた研修会も必要と思います。日本レクリエーション協会との研修面での連携も要検討。
- 3) 助成金制度の活用で、運営面を補う内容にしていきたい。

ジュニア育成部

1) 会員数の確保

新規会員数は22名と伸びなく、今後への大きな課題です。

ジュニアの大きな要点は、就学環境に大きく左右されることです。

活動場所、活動時間の確保が大きな課題です。

2) 大会参加数の増員

開催日を土曜日で進めているが、参加には家族同伴等が条件になり、参加者の経費負担も影響していることから大会開催の改革が必要です。

現在の記録会等を多面的に見直し、大会参加への足掛かりにすべく改善していきます。

障がい者サポート部

活動内容

(1) SAGA2024「全国障害者スポーツ大会」オープン競技

開催日 2024年10月20日

開催地 佐賀県武雄市

- 参加状況 1都1府10県 30名参加
- (2) 10月3日「第17回全国障がい者スポーツウエルネス吹矢大会
開催日 2024年10月3日
開催地 東京都港区
参加状況 16都道府県 64名参加
- (3) 都道府県協会に障がい者スポーツウエルネス吹矢大会の促進
- (4) 全国大会の連携 競技部、審判部、障がい者サポート部
- (5) 障がい者サポート公認指導員の役員講習会の開催
北東北ブロック
南東北ブロック
近畿ブロック
- (6) 障がい者サポート公認指導員資格認定試験
新規 47 名
- (7) 公益財団法人日本パラスポーツ協会
全国大会の後援申請
- (8) 読売新聞日本パラスポーツ賞
受賞者 庄司辰美
- (9) パラスポーツ登録団体合同会議に出席(2025.3.7)
- (10) 第18回全国障がい者大会参加者増のため首都圏のサポート部へ
「障サポだより」としてメール配信

国際団体設立準備室

期初に定めた本年度の事業方針は以下の通り：

1. 協会の中期計画に定めた「三年以内の国際団体の設立」を実現するために、国際団体の骨子と設立後の運営形態を固める。
2. 国際団体(仮称・国際スポーツウエルネス吹矢連盟)設立後に、海外より加盟願うことになる海外協会(現海外支部)の数を増やすべく、海外支部の設立に注力する。
3. 海外支部の活動を支援するとともに、海外支部と協会本部国際部との連携を強化する。必要に応じ、海外出張による指導を行う。
4. 海外支部への遅滞のない情報発信に努める。

活動内容：

1. 日本スポーツ協会の正加盟団体となる条件の一つとして、国際団体があること、そこに加盟していること、が挙げられる。
この条件を満たすために、任意団体「国際スポーツウエルネス吹矢連盟」(英文名:International Sport Wellness Fukiya Federation)を設立した。
国際団体の設立を契機に、第一回世界大会の開催を計画(2026年11月頃)。

2. 国際団体の設立と世界大会開催の計画について、世界各地域の理事国となる海外支部(現在)の了解を得るべく、2025 年 1－3 月に国際部役員と手分けをして、メキシコ、タイ、オーストラリア、ニュージーランドを訪問。尚、この出張は東京都・生活文化スポーツ局の支援を行って実施した。この出張により、メキシコ、タイ、ニュージーランドの各支部長より、理事国・理事への就任につき了解を得るとともに、バンコクオーキッド支部長、ニュージーランド総支部長には国際連盟の副会長への就任についても了解を得た。
3. 2024 年 5 月、香港に出張。現地の状況を把握、認定試験も実施の上、6 月に新たな海外支部として「香港吹矢支部」を設立承認した。
4. 海外支部員、海外会員への情報発信と、HP 英文欄への情報掲載に努めた。
5. 来日する海外支部員・会員に対応、認定試験の実施：
 - 6 月、香港より支部員4名来訪、海外支部認定証、支部長証を授与。認定試験も実施。
 - 10 月、ロシアより国際古武術連盟副会長が来訪、当協会との提携を打診される。まず当協会の会員になって頂くこととし、現在ロシアの会員は 11 名となった。
 - 10 月、ポーランド会員来訪。一級位に合格。
 - 11 月、豪州より 1 名来訪。豪州では吹矢は武器として禁止されているが、例外許可を取得したとのこと。二級位認定試験に合格。現在 12 名が練習をしているとのことで、例外許可を得ている NSW 州限定の海外支部設立を目指す。
 - 3 月、ロシア会員 7 名が 3 回にわたって来訪。初段位合格者が誕生する。
 -

組織管理部

事業方針

更なる活動の活発化に伴う業務量増への対応。

会員の皆さんからの問い合わせは増加傾向にあり、又、多岐にわたる内容で支援を頂きつつ対応するも、業務への負荷は大きくなってきた。

入会獲得策(キャンペーン等)実施の支援はその効果もあり、今後も継続及び退会者削減に向けた実態の把握・分析に関する情報の提供

総務部

1. 予算管理の徹底
2. 適切な収支管理と報告
3. 経費削減の提案

以上の目標に重点を置き、部長会議、常務理事会議にて状況、数値の傾向等を啓蒙する。

収支の安定、基盤の最重要点は会員数の確保である。しかし、会員の皆様の労が実りにくい今、現状における収支の在り方を関係者が十分認知してことに当たらなければいけないと痛感する。すなわち現状会員数での収支管理を認識することも重要である。

以上